

大川市における総合評価方式の取り組みについて

福岡県大川市

1、はじめに

大川市は、福岡県南西部に位置し、有明海へ注ぐ筑後川と豊かな穀倉地帯である筑紫平野に抱かれた、人口およそ 39,000 人の町です。主要産業は、470 年の歴史を持つ家具産業であり、長い歴史と伝統に培われた文化と、美しい自然豊かな町であります。

2、総合評価方式の導入経緯

当市の入札形態は、平成 18 年度まで「指名競争入札」と「随意契約」のみでしたが、市民に対する入札契約制度の透明性確保の観点から、19 年 4 月より、実施設計額が 1,000 万円以上の建設工事に対して「条件付き一般競争入札」を本格導入いたしました。

また、価格と技術力を評価し、総合的に優れた調達を行うため、まずは平成 20 年に、1 件の総合評価方式の試行を行い、新たな入札契約方式の手順確認を行いました。

3、総合評価方式の導入結果

総合評価方式の試行に伴い、事務の煩雑化、近隣市町村との評価の不均衡等、また、評価項目によっては、体制が充実している特定企業のみが優位になることが憂慮されるなど、課題が出てきております。

それらの課題については、いまだ解消できていない部分があり、今後は効率的で効果的な入札制度の観点から、事務の簡素化などの創意工夫を行いながら、更なる改善を進めていく予定です。

4、最後に

今回、指名競争入札において総合評価方式の試行を行った結果、公共工事の品質確保とあわせ、地元優良企業の健全な保護育成に資することができました。

今後も更なる品質向上、さらには、技術と経営に優れた健全な地元建設業の育成のため、中立かつ公正な審査や評価に努める所存です。